

大祭司と祭司

ヘブル人への手紙 5:1~5



5:1 大祭司はみな、人々の中から選ばれ、神に仕える事からについて人々に代わる者として、任命を受けたのです。それは、罪のために、ささげ物といけにえとをささげるためです。

5:2 彼は、自分自身も弱さを身にまとうているので、無知な迷っている人々を思いやる事ができるのです。

5:3 そしてまた、その弱さのゆえに、民のためだけでなく、自分のためにも、罪のためのささげ物をしなければなりません。

5:4 まただれでも、この名誉は自分で得るのではなく、アロンのように神に召されて受けるのです。

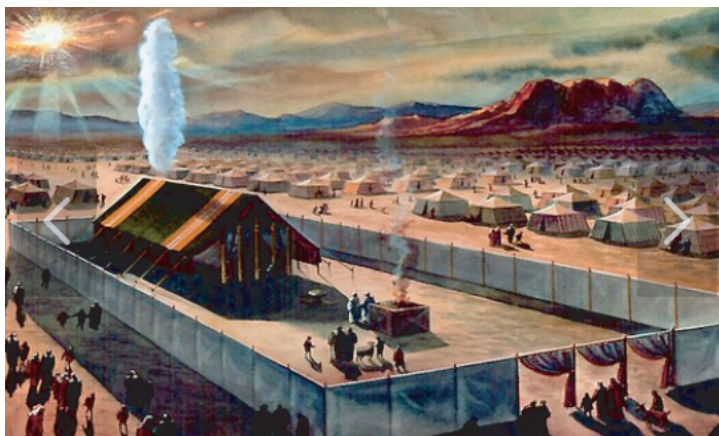
5:5 同様に、キリストも大祭司となる栄誉を自分で得られたのではなく、彼に、「あなたは、わたしの子。きょう、わたしがあなたを生んだ。」と言われた方が、それをお与えになったのです。

旧約の祭司制度

旧約時代には祭司制度があり、祭司は、神と人の間に立つ仲介者として、神からの任命によって、種々のいけにえを神に捧げました。しかし、レビ系の祭司職は、永遠に続くものではありませんでした。それは、イエス・キリストを示す予型であったのです。

大祭司とは

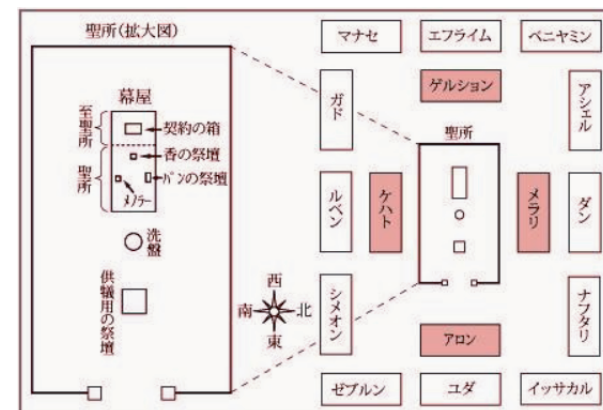
神の意思を民と指導者に告げ、年1回贖い日に至聖所に入り、神の前に民を代表して、いけにえのやぎの血を贖いのふたにかけました。アロンの子エルアザルの家系の者が任命され、全イスラエルの罪の贖いをしました。祭司階級は、**大祭司**、**祭司**、**レビ人**の3階級でした。



キリストは永遠の大祭司

キリストは、すでに成就したすばらしい事からの大祭司として来られ、手で造った物でない・・・この造られた物とは違った、さらに偉大な、さらに完全な幕屋を通り・・・やぎと子牛との血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度、まことの聖所にはいり、永遠の贖いを成し遂げられたのです。

もし、やぎと雄牛の血、また雌牛の灰を汚れた人々に注ぎかけると、それが聖めの働きをして肉体をきよいものにするとするれば、まして、キリストが傷のないご自身を、とこしえの御霊によって神におささげになったその血は、どんなにか私たちの良心をきよめて死んだ行ないから離れさせ、生ける神に仕える者とするものでしょう。（ヘブル9:11~14）



軍務につく登録された者の総合計は 603,550人

祭司の聖別

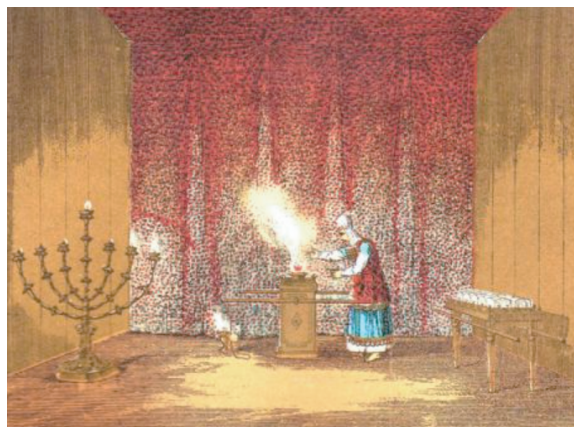
あなた（アロン）は、彼らを祭司としてわたしに仕えるように聖別するため、次のことを彼らにしなければならない。すなわち、若い雄牛一頭、傷のない雄羊二頭を取れ。

（出エジプト29:1）

祭司のつとめ

祭司の聖所での中心的な働きは、祭壇で「いけにえ」を神にささげることでした。レビ1-7章には通常のいけにえ、ささげ物の方法が語られ、また民数28-29章には祭儀曆に従ってささげるべきいけにえの種類と順序が記されています。祭司はこの奉仕を通して「贖い」をなしたのです。

そして祭司は毎日、契約の箱の前の垂れ幕の外側にある燭台に「ともしび」を整え、朝夕神の前に香をたき、さらに、安息日ごとに新しいパンを整えました。



万人祭司

あなたがたも生ける石として、霊の家に築き上げられなさい。そして、聖なる祭司として、イエス・キリストを通して、神に喜ばれる霊のいけにえをささげなさい（1ペテロ2:5）

すべてのクリスチャンは祭司です。神と人間との間にはアダムの罪により、超えることのできない断絶があり、いかなる人間も神に近づき、祈りやいけにえを捧げ、恩恵を受けることはできませんでした。

旧約時代においては、神がイスラエルの民と特別な契約を結んだゆえに、人間は神に近づけるようになりました。しかしそれは全人類ではなく、神がイスラエルの中から選んだ少数の祭司（階級）を媒介してでした。

神殿には聖所と至聖所を分けていた垂れ幕があり、垂れ幕の奥にある至聖所に入ることができたのは、大祭司だけでした。しかも、年に一度しか入れませんでした。

イエスが十字架上で死んだ瞬間に、神殿の聖所と至聖所を分けていた垂れ幕が、上から下に裂けました。それは、すべての信者が真の大祭司であるイエス・キリストを通して、神の臨在の前に出ることができるようになったということです。新約時代においては、地上的な祭司は必要ではなくなりました。

所有者はだれか

あなたがたのからだは、あなたがたのうちに住まれる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたは、もはや自分自身のものではないことを、知らないのですか。（1コリ6:19）

キリストの代価

あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから自分のからだをもって、神の栄光を現わしなさい。（1コリ6:20）

所有権を放棄する

そういうわけですから、兄弟たち。私は、神のあわれみのゆえに、あなたがたにお願いします。あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。

（ローマ12:1-2）

みわざを宣べ伝えるため

あなたがたは、選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神の所有とされた民です。それは、あなたがたを、やみの中から、ご自分の驚くべき光の中に招いてくださった方のすばらしいみわざを、あなたがたが宣べ伝えるためなのです。（1ペテ2:9）